

リベラル派の退潮と反ユーロ新党の急伸

－ 2013 年ドイツ連邦議会選挙結果の分析－

中村登志哉

2009 年のユーロ危機以降、英国やフランス、イタリア、スペインなどの各国で政権交代が相次いでいた欧州で、経済が好調で独り勝ち状態のドイツでは 2013 年 9 月、危機以前から政権を担ってきたメルケル政権が欧州で初めて総選挙による信任を獲得した。政権保守与党のキリスト教民主・社会同盟 (CDU/CSU) が大勝する一方、連立パートナーであるリベラルの自由民主党 (FDP) は議会進出のための最低得票率の 5% を超えることができず、議会外野党の地位へ転落した。一方でメルケル首相が採ったユーロ救済策を批判する新党「ドイツのための選択肢 (AfD)」には結党間もないにもかかわらず 5% 近い票が集まり、ユーロ救済策への反発が根強いことも浮き彫りになった。この度の連邦議会選挙の結果を受けて、CDU/CSU と社会民主党 (SPD) は連立政権協議を重ね、第 1 期メルケル政権以来の大連立政権を発足させた。2013 年の総選挙がもたらした保守与党の伸長とリベラル派の退潮、そして新党の反ユーロ政党の急伸は、ドイツの政治、外交・安全保障政策にどんな地殻変動をもたらすのか。総選挙の結果と現地調査から分析する。

1. 問題意識

2013 年 9 月 22 日に実施された第 18 期ドイツ連邦議会選挙結果は、とりわけ次の三点で注目される。第一にアンゲラ・メルケル首相率いるキリスト教民主・社会同盟 (CDU/CSU) が 40% 以上の得票を得て、同党史上特筆すべき大勝をしたこと、第二に同党のジュニア・パートナーである自由民主党 (FDP) が 5% 以上の得票率を得られず連邦議会に議会外野党となったこと、第三にその FDP とは対照的に、ドイツの EU への関与を減ずることを目標として掲げた「ドイツのための選択肢 (AfD)」 (Alternative für Deutschland) が、2013 年初頭に設立されたばかりであったにもかかわらず、4.7% もの得票率をいきなり獲得したことである。これらはすべてドイツ連邦議会史上、大きな意味を持つ。CDU/CSU がこれだけの得票を獲得できたのはヘルムート・コール首相率いた同党の連邦議会選挙以来 20 年ぶりのことであるし、FDP は西ドイツ建国の 1948 年の結党以来ドイツ連邦議会に議員を送り込まなかったことはかつてなかった。CDU/CSU や SPD と連立を組むことによって、他のいかなる政党よりも長く与党の座に座り続け、ドイツ政治のキャスティングボートを握ってきた。

同党は州レベルではまだ議席を確保しているが、今回の連邦議会選挙結果が同党の将来にどのような影響もたらすのかを検討する必要がある。同時に、CDU/CSU はこれほどの大勝をしたとはいえ、単独過半数を得られず、連立相手が必要であることを考えると、FDP が連邦議会から脱落することは、大きな影響を与える。また、ユーロ懐疑派によって結党された AfD が結党から間もない短期間でこれほどの急伸を見せた事実も注目すべき動きである。AfD は翌 2014 年の欧州議会選挙への候補擁立を表明しており、同議会の制限が 3 %であることを考慮すれば、欧州議会への進出の可能性は小さくないからである。

本稿は、以上のような観点から歴史的含意の大きい第 18 期ドイツ連邦議会選挙を取り上げ、その選挙結果から現在のドイツにおける政治的变化の傾向を読み取り、またその外交・安全保障政策への影響を検討しようとするものである。戦後ドイツは欧州統合の推進を国家目標の一つに掲げ、第二次大戦後の西ドイツ建国、東西ドイツの統一を実現してきたが、欧州統合の深化、とりわけ共通の外交・安全保障政策を積極的に支持する欧州派政党としての顔も持つ FDP が連邦議会の議会外政党に転ずる一方で、ドイツのユーロへの関与を減じることを謳う AfD が急伸したという事実が示唆するものは、ドイツの外交・安全保障政策の観点からも慎重に検討する必要があると考えられる。

2. メルケル政権への信任と連立与党の敗北

2005 年にメルケル政権が発足してから、三期目を迎えることができるかどうかを決める 2013 年 9 月のドイツ連邦議会選挙は、CDU/CSU の圧勝に終わり、二期目のメルケル政権は国民からの大方の信任を得たものの、単独過半数を獲得するところまでは票を伸ばすことはできなかった。その上、ジュニア・パートナーである FDP が 5% 条項を満たす得票率を得られず、議会外野党に転落するという結果になったことにより、CDU/CSU は新たな連立パートナーを探す必要に迫られた。同党の大勝の一方で、反ユーロを掲げた新党 AfD の得票率 5% に迫る躍進は、第二期メルケル政権のユーロ危機に対する対応への不満の表れと捉えることもできよう。以下、政党別に今回の選挙結果をデータから分析したい。

CDU/CSU の大勝

2013 年 9 月の総選挙は、メルケル首相率いる CDU/CSU¹ とジュニア・パートナーである FDP による保守・中道連立政権の下、実施された。同政権は 2009 年の発足当初から欧州債務危機への対応を迫られ、ユーロ救済に精力的に取り組んできた。選

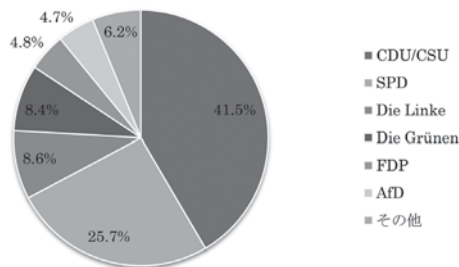
1 CDU に関する日本語の文献は次を参照。近藤正基 (2013 年) 『ドイツ・キリスト教民主同盟の軌跡 - 国民政党と戦後政治 1945 ~ 2009』 ミネルヴァ書房。

挙前より、メルケル首相が続投するのは確実視されていたが、9月22日の選挙結果は予想を上回る CDU/CSU の大勝であった。CDU/CSU は1998年以來15年ぶりに40%以上の得票を得て、本選挙における明確な勝者となった。具体的には、同党の得票率は41.5%を記録し、前回2009年から7.7%も得票率を伸ばしている²。今回の選挙で得票率を伸ばしたのはこのほかにSPDとAfDであり、それらの増加率と比較しても、他の政党を圧倒する大勝である。

そして、この勝利はメルケル一人の勝利だったとも言える。8年間の首相としての実績が評価されたことの表れであり、国民が個人的にメルケル氏を信頼し、引き続きドイツの首相でいてほしいと考えたと理解される³。本来ドイツの有権者は政策重視傾向が強く、人物本位の選挙に走ることはあまりなかったが、今回の選挙ではメルケル人気選挙結果に大きな影響を与えたことは明白である。CDU/

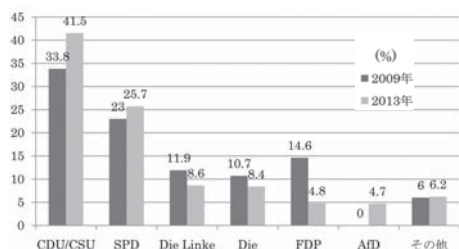
CSUは選挙綱領ではなくメルケルを選挙運動の中心に据えた⁴。SPDの首相候補者に指名されたペール・シュタインブリュック (Peer Steinbrück) とメルケルを比較した、選挙前の2013年9月に実施された世論調査では、メルケルの方が親しみやすさ(52%)と実行力(54%)の点で圧倒的に高い評価を受けている⁵。選挙戦中、メルケル首相のファーストネームに由来する愛称「アンジー (Angie)」のプラカードが多数掲げられたほか、「ムティ (Mutti)」(ドイツ語でママの意) という愛称で親しみを込めて呼

図1 2013年9月ドイツ連邦議会選挙における得票率の政党別分布



出典) Der Bundeswahlleiter (9. Oktober 2013) "Endgültiges Ergebnis der Bundestagswahl 2013" のデータより作成

図2 政党別得票率の増減



出典) Der Bundeswahlleiter (9. Oktober 2013) "Endgültiges Ergebnis der Bundestagswahl 2013" のデータより作成

2 Der Bundeswahlleiter. (9. Oktober 2013). *Endgültiges Ergebnis der Bundestagswahl 2013*. <http://www.bundeswahlleiter.de/de/bundestagswahlen/BTW_BUND_13/ergebnisse/bundesergebnisse/>10月12日アクセス。また、筆者は2013年9月下旬の投票前後の時期にドイツ・ベルリンにおいて現地調査を実施し、有識者への聞き取り調査なども行った。

3 Alison Smale. (September 22, 2013). Merkel Re-elected in Show of Strong Support for Party, *New York Times*. <<http://www.nytimes.com/2013/09/23/world/europe/germany-elections.html>>>9月24日アクセス。

4 Berthold Kohler. (22.09.2013). Siegerin: Angela Merkel. *Frankfurter Allgemeine*. <<http://www.faz.net/aktuell/politik/bundestagswahl/bundestagswahl-siegerin-angela-merkel-12585603.html>>9月24日アクセス。

5 Matthias Jung, Yvonne Schroth, Andrea Wolf. (November 2013). Angela Merkels Sieg in der Mitte, *Aus Politik und Zeitgeschichte*, 48-49/2013, S.9-20.

ばれることも多かった。隣国フランスのルモンド紙は「メルケルは59歳にして世界で最も強力な女性であることが確認された。彼女は欧州経済・金融危機が起きて以降、欧州の大国で唯一再選された首相である⁶」としてメルケルの功績を取り上げた。9月22日付高級週刊紙ツァイトは、40%超の得票率の獲得、前回からの大きな得票率の拡大、他の党に大差をつけての第一党の地位を確立といった点から、「メルケルはヘルムート・コールの最盛期に似ている」として、コール長期政権になぞらえた⁷。

とは言え、単独過半数は得られなかったメルケルは、連立相手を必要とする。メルケルは今回の選挙でFDPからの大量の票を獲得することに成功したが、それは当然のことながらFDPの得票率の縮小につながった。このため、FDP自体にも後述するように独自に抱える諸問題があったものの、長年の連立パートナーであるFDPは5%の壁を越えられず、議会外野党の座に転落してしまった。

SPD

SPDはCDU/CSUと並んで、微増(2.7%)ながらも得票率を25.7%に伸ばした。11.2%を失った2009年の大敗北と比較すれば成功と言えなくもないが、2005年の得票率34.2%には遠く及ばず、SPDは得票率20%台の政党にとどまった。CDU/CSUの大勝により同党との差は、10.8%から15.8%と、2009年選挙時よりむしろ広がっている。こうしたことを鑑みると、本当の意味で成功と言えるかどうかには疑問符がつくと言えるだろう。

とりわけ重要なのは、SPDが緑の党と合わせて過半数を目指すとした選挙目標を実現できなかったという明確な敗北を喫したことである。時給8.5ユーロの法定最低賃金の一律導入を選挙綱領に盛り込んだが、選挙民の支持は伸びなかった。選挙直後には、連立についてメディアで次のような意見が出されていた。ドイツ第二放送(ZDF)のエルマー・テフェセン論説副主幹は「SPDは選挙期間中、現実より劣ったドイツ像を描いて見せた。だから選挙民に信頼されなかった」⁸と、不振の理由を説明した。ツァイト紙は、SPDが望む結果を得られなかった理由として、同党首相候補者に指名されたペール・シュタインブリュックの攻撃は効を奏せず、メルケルを本当の意味で脅かすことができなかったこと、SPDが描くほどドイツも国民生活も悪い状態にあると国民が信じなかったこと、などを挙げた⁹。国民は、SPDが提唱した緑の党との連立による社会保障改革に背を向けただけでなく、2005年11月から2009年までの大

6 Angela Merkel célèbre sa victoire. *Le Monde*. September 23, 2013, <http://www.lemonde.fr/europe/video/2013/09/23/angela-merkel-celebre-sa-victoire_3482630_3214.html?xtmc=a_59_ans_la_chanceliere_allemande&xtcr=4>9月23日アクセス。

7 Ludwig Greven. (22. September 2013). Es ist Merkels persönlicher Triumph. *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/bundestagswahl-analyse>>9月23日アクセス。

8 Elmer Theveßen. (22. September 2013). Kommentar. *Heute Journal*. <<http://www.zdf.de/ZDFmediathek#/beitrag/video/1991130/ZDF-heute-journal-vom-22-September-2013>>9月23日アクセス。

9 Ludwig Greven. op.cit.

連立によるメルケル内閣で財務相を務めたシュタインブリュックに、上述の選挙綱領に基づく路線をとる能力があるとは信じなかったと言える。先に引用したメルケルとの比較調査でもシュタインブリュックに「実行力がある」とする回答者は17%、「信頼できる」は13%にとどまっていた¹⁰。

同盟90・緑の党 (Bündnis 90-Die Grünen)

同盟90・緑の党¹¹の状況もSPDに似ている。同党の選挙結果は得票率が10.7%から8.4%と減少して、2005年の選挙までと同様の一桁台の支持率に戻り、執行部を落胆させた。同党はカトリン・ゲーリング＝エックルト (Katrin Göring-Eckardt) とユルゲン・トリティン (Jürgen Trittin) を筆頭候補に立てて選挙戦を戦ったが、選挙直後の記者会見で、前者は選挙結果を「明確な敗北」と述べ、後者は「二重の敗北」と位置づけた。というのも、SPDと合わせて過半数をとるという目標も、同盟90・緑の党への支持を増やすという目標も達成できなかったからである。同盟90・緑の党が国民政党への道を歩んでいると考え始めていた有権者もこの結果により現実を突き付けられた。

同盟90・緑の党は従来の環境・自然保護政策に加えて、所得税の最高税率引き上げを打ち出していた。ユルゲン・トリティンの下で野心的な税制改革を提示した同党は、企図していた増税のうち、実際にはより高い収入のある層に対する増税だけが残ったが、この階層には同党の支持者が多くいたのである¹²。

左派党 (Die Linke)

左派党 (Die Linke)¹³はCDU/CSU以外の政党で唯一選挙結果を喜ぶことができた政党だった。得票率は11.9%から8.6%に減少したにもかかわらず、ドイツ連邦議会で第三位の政党としての地位を守ったからである。伝統的な労働運動の継承者を名乗る民主的社会主義政党であり、東独の独裁政党だったドイツ社会主義統一党 (SED) を前身とする「左翼党・民主社会党」と、SPD最左派が結成した「労働と社会的公正のための選挙オルタナティブ (WASG)」の合併により2007年に発足したが、本選挙においても明確な左派の野党勢力としてドイツ連邦議会に残ったと言える。

AfD

今回の選挙戦でメルケルを本当の意味で悩ませたのは、「ドイツのための選択肢 (AfD)」(Alternative für Deutschland) だけだったかもしれない。この反ユーロ政党は、2013年4月に正式に結党を発表したばかりの新党だったにもかかわらず、6カ月足ら

10 Matthias Jung, Yvonne Schroth, Andrea Wolf. op. cit. S.13.

11 緑の党に関する日本語での文献は次を参照。西田慎 (2009年) 『ドイツ・エコロジー政党の誕生—「六八年運動」から緑の党へ—』昭和堂。

12 Ludwig Greven. op.cit.

13 左翼党に関しての日本語での文献は次を参照。木戸衛一 (2013年) 『ドイツ左翼党の挑戦』せせらぎ出版。

ずで、あとわずかのところで連邦議会へ進出できるほどの票を獲得したのである。後述するようにAfDは、メルケルが推進してきたユーロ政策の方向性をポピュリスト的なスローガンを使って攻撃した。その結果、議会進出こそ逃したものの、この短期間で議席獲得まで肉薄した。このため、メルケルは今後、AfD支持者層であるユーロ救済策に反対する国民の存在をより強く考慮することを求められることになるであろう。

議会外野党支持者が過去最大に

今回の連邦議会選挙のもう一つの重要な特徴は、上述のようにFDPやAfDが多くの支持を集めながらも、5%条項を超えられなかったために、結果として議会外野党の支持者が過去最大になったことである。ツァイト紙によれば、第二票(政党別の投票)の得票率をみると、議会に代表を送らない議会外野党の割合は、FDPの4.8%、AfDの4.7%を筆頭とするすべての得票率5%以下の少数政党を合計すると15.8%にも及んでいる¹⁴。同紙の計算によれば、90年代に実施された3回の選挙で6~8%、2000年代に実施された3回の選挙で4~7%だったことに比較すると、今回の選挙における議会外野党の支持率は群を抜いて高い。マルティン・モーロク(Martin Morlok)デュッセルドルフ大学教授は、この点に関して「パーラメント」誌のインタビューにおいて「ドイツは新しい計量的な状況に直面している。過去と比較すると、より多くの国民が連邦議会の形成に関わることができなくなっている」と問題を指摘した¹⁵。

こうした状況は、最低得票率を定めた5%条項をめぐる選挙制度に関する議論を再燃させる可能性を秘めている¹⁶。オーストリアでは4%、ギリシャでは3%など、近隣諸国と比較してドイツの5%条項の数値設定の是非を巡る議論はこれまでも潜在的に存在した。上述のモーロク教授は、早急な選挙制度変更には慎重論を唱えている。5%条項ができた背景には、ワイマール共和国時代の少数政党の乱立によって政権の成立が困難となったことがあると言われている。同教授は当時の問題は政党乱立よりもむしろ、相互に連立による組閣をする意思が欠けていたことに問題があったとみているが、今回の結果をもって選挙法の変更につなげることには警鐘を鳴らしている。

3.FDPの凋落

一方で、CDU/CSUやSPDと連立相手を変えながら、戦後の長きにわたってキャスティングボートを握る連立与党として連邦議会に大きな存在感を示してきた自由主義政党であるFDPが初めて、議席獲得のための5%の得票率を確保できず、連邦議会から姿を消したことは、ドイツ政治の転換を示唆するものといえる。ツァイトの電子版は9

14 Michael Schlieben. (26. September 2013). Die größte Apo aller Zeiten. *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/bundestagswahl-nichtwaehler-apo-grafik>>9月30日アクセス。

15 Wirksame Kontrolle ist nötig. *Das Parlament*, 14. Oktober 2013, S.2

16 Ströbele fordert Dreiprozenthürde. *Die Zeit*. 28. September 2013. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/wahlrecht-fuenfprozenthuerde-papier>>9月30日アクセス。

月22日、「FDPにとって2013年9月22日は存在を脅かす歴史的な日となった。ドイツ連邦共和国において、CDUより政権の座にあった期間が長いFDPはいまや、議会外野党となった。CDUとの連立の4年間にわたる（選挙公約の）不実行に対する有権者からの罰であり、事実、この間FDPは公約を一つも実現できなかった」¹⁷と書いた。

FDPはなぜ凋落したのだろうか。1948年の結党で中道リベラルの同党は戦後、旧西ドイツ時代に、CDU/CSU、SPDに次ぐ第3勢力として、CDU/CSUか、あるいはSPDと連立政権を組むかをめぐってキャスティングボートを握る立場となり、アデナウアー政権、キージガー大連立政権、メルケル第1期大連立政権などを除き、小党ながら、延べ約44年間にわたり連立与党として政権の座に就いてきた¹⁸。それは、単に政権の一端を担ったというにとどまらない。1974年から92年までの実に18年にわたり副首相兼外相として外交の責任者を務め、稀有の外交手腕を発揮して、ヘルムート・コール首相とともに平和裡にドイツ統一に導いたハンスディートリヒ・ゲンシャーは1974年から85年まで、党首として同党を率いた、FDPが生んだ大物政治家である。ゲンシャーは統一後も、旧ユーゴスラビア紛争への舵取りも担い、ドイツ統一への道のり、そしてそれに続く新生ドイツの国造りに大きな手腕を発揮した。統一前の西ドイツの国家目標であるドイツ統一が、コール首相の政治手腕によるところが大きいことは言うまでもないことであるが、しかしながら、欧州の外交界において長きにわたって君臨したゲンシャーの存在と人脈が大きな力を発揮したことは否定できない。同党が残してきたそのような足跡を考えれば、ドイツ政治における大きな存在感を否定することはできない。

それにもかかわらず、議会から姿を消すことになったのはなぜか。前回2009年の総選挙では14.6%の得票率を得て勝利しながら、その際の減税公約をメルケル首相の連立政権下で実現できないままに今回の総選挙を迎え、その公約違反に対する厳しい批判を招いたことが挙げられる¹⁹。また、それに関連した癒着が報道されたことが大きく影響したとされる。また、経済政策的にCDU/CSUよりも市場原理を重視し、よりリベラルな政策を掲げたほか、外交政策においても共通外交・安全保障政策（CFSP）の積極的推進など親欧州の政策を掲げ、これがユーロ危機への対応としてギリシャなどへの支援に反発する国内世論から敬遠された可能性が指摘されている。

名誉党首のゲンシャーは選挙結果に関連して、党が取り組むべきテーマを減税という狭い範囲に絞ったことが敗因であるとの見方を示し「私はそのことを早い時期から警告していた」と述べた。同氏はその上で「党は非常に深刻な状況に陥った」と述べ、党勢

17 Ludwig Greven. (22. September 2013). Es ist Merkels persönlicher Triumph. *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/bundestagswahl-analyse>>9月23日アクセス。

18 FDPの結党以来の詳細については、加藤秀治郎(1985)『戦後ドイツの政党制—東西ドイツ政党の政治社会学的分析』学陽書房、145-192頁参照。Robert Leicht. (26. September 2013). Dreißig Jahre Niedergang. *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/2013/40/fdp-geschichte>>9月23日アクセス。

19 Karl-Rudolf Korte, Niko Switek. (November 2013). Regierungsbilanz: Politikwechsel und Krisenentscheidungen. *Aus Politik und Zeitgeschichte*, 48-49/2013, S.3-8.

の回復が容易ではないと分析した²⁰。

問題は、同党が今後、どのような将来を描いていくことになるかということである。FDPが連邦議会から退出した今、ドイツ政治におけるリベラリズム思想はどのようなのだろうか。はっきりしていることは、総選挙におけるこの度の敗北を受けて、減税や規制緩和などの政権公約の見直しに着手することを決めたことである。本格的な政策の検討は、次期党首に決まったクリスティアン・リントナー (Christian Lindner) の下で進むことになる。

ゲンシャーはリントナーの政治手腕をかつてから評価していたとしつつ、同党が生き残るために、次のようにアドバイスする。すなわち、ユーロ危機を含む欧州における諸問題、依然として失業率が高く復興途上の旧東ドイツ地域に関する問題などに焦点を当てて独自の政策を検討した上で、政治上のパートナーを CDU/CSU だけに限らず、社会民主党と組むこともタブーにすることなく、選択に加えるべきであると強調する²¹。

ゲンシャーは自らが党首だった当時の1982年、社民党のシュミット首相との連立を解消し、CDU/CSUと組んでヘルムート・コール政権を誕生させた経緯がある。この政権交代に象徴されるように、FDPが小党ながらキャスティングボートを握っていると言われたのは、第3勢力としての立場を遺憾なく発揮してきたからである。しかしながら、近年は緑の党が連邦議会でも FDP と並ぶ規模の政党に成長し、社会民主党のシュレーダー政権が緑の党を連立相手として連立政権を樹立するなど、CDU/CSU の連立相手は FDP、社民党の連立相手は緑の党というドイツ政治の構図が定着してきた感があった。このことは即ち、FDP にとっての連立相手は CDU/CSU に限定されることを意味した。ゲンシャーは、そのことが FDP の政治的選択肢を狭めていて、党勢拡大の阻害要因になると考えたのである。このため、FDP は CDU/CSU だけでなく SPD との連立の可能性も視野に入れ、政党として常に自立した立場を持つべきであるという原点の重要性を訴え、その姿勢を回復することが党勢の回復には必須であると訴えた²²。

しかし、その前途は明るいとは言えない。ユーロ危機に伴い、ドイツやギリシャやキプロスなど南欧諸国に対し経済支援を実施しているが、そのことに対する国内世論の反発の大きさは、反ユーロ新党 AfD の急伸を見るまでもなく顕著である。欧州統合の発展こそがドイツの国益であり、欧州の中のドイツを戦後の国是と掲げて、戦後政治のほとんどの期間を連立与党として担い、親欧州の政策を掲げてきた FDP にとって、現在のこのような欧州統合の危機的な局面の中で、このような国内世論をどう受け止めて、新しい政策を打ち出していくのかは容易なことではないであろう。

20 Genscher rechnet mit FDP-Führung ab. *Die Zeit*. 6. Oktober 2013. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-10/genscher-fdp-wahlergebnis>> 10月18日アクセス。

21 Genscher fordert von FDP Öffnung zur SPD. *Die Zeit*. 24. September 2013. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/genscher-neue-fdp>> 10月18日アクセス。

22 Genscher fordert von FDP Öffnung zur SPD. *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/genscher-neue-fdp>> 10月18日アクセス。

4. AfD の躍進

戦後ドイツにはいくつかの新党が結成されている。「ドイツのための選択肢 (AfD)」(Alternative für Deutschland) もそうした政党の一つであるが、AfD に今注目すべきなのは、その結成から支持拡大までのスピードの速さと、反ユーロという同党の掲げる政治目標と、また類似の政治目標を持つ政党が欧州各地に多発的に生まれている現状が存在するからである。ドイツ国内のみならず、欧米の各メディアも同党の躍進ぶりには選挙前から注目してきた²³。選挙で5%条項まで0.3%の得票率に迫ったことで、その注目度もさらに上がっている。ここでは、まだよく知られていない同党の成り立ちとその選挙結果の持つ意味を検討したい。

AfD とは

AfD が正式に結成されたのは2013年4月であり、同年の総選挙まで半年を切ったタイミングであった。それにもかかわらず、これほどの短期間で議会進出に肉薄した点が同党への関心を高めた。

同党のホームページに公表された政策綱領によれば、同党は共通統合市場を持った主権国家が構成する欧州は肯定するものの、各国の国民議会が制限のない予算の権利を持つことを主張し、その権限の移譲や中央主権的な欧州国家を拒否する、と明言している²⁴。また、立法権限を各国の国民議会へ戻すことに努力するほか、欧州連合の行政機関を廃止し、透明性と市民との緊密さを促進するためにEUの改革を推進することなどを目指すという。政策綱領は極めて明快で平易なドイツ語で記述されており、わかりやすいのが特徴と言えるだろう。ハンブルク大学の経済学者で元CDU党员、5人の子供の父親であるベルント・ルッケらによって設立された。

選挙期間中、同氏は「ユーロが失敗しても、欧州がうまくいかなることはないが、ユーロが失敗すれば、アンゲラ・メルケルは失敗する」と、メルケルが常に繰り返してきた常套句をあてこすって選挙演説を行ってきた²⁵。4.7%という結果に対し、同代表は「誇りに思っている強い結果だ」と述べている²⁶。選挙日から一週間足らずで実施されたエムニット研究所による「もし今選挙があったらどの政党に投票するか」

23 例 えば、Jan Christoph Wiechmann. (17. Juli 2013). Interview mit AfD-Chef Lucke "Ich halte zweistellig für möglich". *Stern*. <<http://www.stern.de/politik/deutschland/interview-mit-afd-chef-lucke-ich-halte-zweistellig-fuer-moeglich-2039017.html>> 9月15日アクセス。Nicholas Kulich and Melissa Eddy. (April 14, 2013). German Elites Drawn to Anti-Euro Party, Spelling Trouble for Merkel. *New York Times*. <<http://www.nytimes.com/2013/04/15/world/europe/elites-flock-to-anti-euro-party-alternative-for-germany.html>> 9月15日アクセス。

24 Alternative für Deutschland. (14. April 2013). *Wahlprogramm*. <<https://www.alternativefuer.de/partei/wahlprogramm/>> 9月23日アクセス。

25 Noah Barkin. (April 14, 2013). Analysis: Don't underestimate Germany's new anti-euro party. *Reuters*. <<http://www.reuters.com/article/2013/04/14/us-germany-antieuro-party-idUSBRE93D08220130414>> 9月23日アクセス。

26 Alternative für Deutschland. (24. September 2013). *Großer Achtungserfolg der Alternative für Deutschland*. <<https://www.alternativefuer.de/2013/09/24/grosser-achtungserfolg-der-alternative-fuer-deutschland/>> 9月26日アクセス。

を問う世論調査では、AfD は 5% 条項を超える 6% の支持を集めた²⁷。ルッケ氏は「ほんの六か月前にわれわれは党を設立し、議会進出に肉薄するほどの結果を得た。われわれが望んだ以上の大きな成功だ」と語った。「連邦議会に進出は果たせなかったとしても、この結果を来たる州議会選挙、とりわけ 2014 年 5 月の欧州議会選挙に生かすことができる」と、欧州議会選挙への意欲を見せている²⁸。

彗星のごとく現れた AfD にメディアの関心が大きくなる中で、AfD という政党ないしはベルント・ルッケ氏に、ネオナチ的傾向があるのではないかと、この疑いも徐々に浮上した。例えばシュテルン誌は、同氏がナチ時代に多用された用語を使っていることを問題視し、「中道」を標榜する同氏の信念が本当にそこにあるのか、と疑問を投げかけた²⁹。同記事によれば、同氏は選挙当日、AfD の躍進について、ここ数年「民主主義と議会制度の退廃 (Entartung)」が見られていたものの、今回の選挙によって民主主義が鍛えられた、と発言したという。ルッケ氏が使った Entartung (退廃) という言葉は、ナチ時代に「芸術の退廃 (Entartete Kunst)」「退廃した音楽 (entartete Musik)」といった表現で、ナチズムのイデオロギーと相容れない文化に対して使われた言葉である。シュテルン誌はこの言葉を使った理由を同氏に質したが、回答は得られなかったという。いくつかのテレビ番組で同種の質問を受けたルッケ氏は、ユーロ危機の際に複雑な問題を連邦政府があまりに速く決定したこと、議会でもっと時間をかけて熟慮すべきだったことをそうしなかった政治の状態を表現するために“entarten”という用語を使ったと弁明している³⁰。

AfD も右翼勢力とみなされることに関しては神経を尖らせている。小政党の一つで、反イスラム・外国人排斥を掲げる「自由 (Die Freiheit)」のレネ・シュタットケヴィッツ (René Stadtkewitz) 代表は本選挙後すぐに、連邦議会・州議会への候補者を擁立することを断念し、AfD の支持に回るよう党員に呼びかける書簡を回覧したという³¹。その理由として同氏は、同党の政策目標が AfD のそれと 90% 一致しているという見方を挙げたという。これに対応して AfD は 10 月 1 日、「自由」をはじめとする少数政党の元党員を受け入れないことを発表した³²。FDP だけを例外とする、として FDP 党員の受け皿となることに意欲を示した。とは言え、「自由」との協力関係があっ

27 AfD würde bei Neuwahlen in den Bundestag einziehen, 29. September 2013, *Die Zeit*. <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-09/afd-im-bundestag>>10 月 1 日アクセス; Emnid-Umfrage: AfD hebt ab, FDP schmiert ab, *Wild am Sonntag*, 28. September 2013. <<http://www.bild.de/politik/inland/koalitionsverhandlungen/afd-hebt-ab-fdp-schmiert-ab-32601018.bild.html>>10 月 1 日アクセス。

28 Alternative für Deutschland. (24. September 2013). op.cit.

29 Matthias Weber. (28. September 2013). Biedermann oder Brandstifter? *Stern*. <<http://www.stern.de/politik/deutschland/afd-chef-lucke-biedermann-oder-brandstifter-2060931.html>>10 月 1 日アクセス。

30 Tillmann Neuscheler. (1. Oktober 2013). Sie haben “entartet” gesagt. *Frankfurter Allgemeine*. <<http://www.faz.net/aktuell/feuilleton/medien/faz-net-fruehkritik/fruehkritik-hart-aber-fair-sie-haben-entartet-gesagt-12598287.html>>10 月 5 日アクセス。

31 Yassin Musharbash. (1. Oktober 2013). Warum man jetzt auf die AfD achten muss. *Die Zeit*. <<http://blog.zeit.de/radikale-ansichten/2013/10/01/warum-man-jetzt-auf-die-afd-achten-muss/>>10 月 5 日アクセス。

たことが徐々に明らかになってきている³³。とりわけザクセン州において、「自由」がAfDの支援をした疑いが浮上している。ヴェルト紙は「自由」が2012年10月に作成した候補者リストの上位者数名が現在ではAfDの支持に回っていることを実名を挙げて報道した。

2014年の欧州議会選挙とAfDの将来

ユーロ懐疑派の新党が存在感を増す現象は欧州各地で生まれており、ドイツにおけるAfDの出現が初めてではない。ユーロ危機への対応時、メルケル首相は「ドイツにはユーロを守る以外の選択肢はない」と繰り返し、ギリシャなどへの救済策に巨額の負担をする決定をした。その政府の決定をドイツの主要野党も是認する、という既成政党の在り方に不信感を抱いた層が、AfDの明快な主張に引きつけられたと言える。CDUやFDPと言った既成政党では政治的要求が満たされないと感じたかつてのリベラル信奉者や、右派の保守層が選挙パーティに参加した、という³⁴。彼らは同性愛同士の結婚や女性割当比率をあまり良しとせず、その代わりに男性が収入を得て、女性が子供の世話をする伝統的な家族モデルをよしとする。欧州議会が定めた少数政党乱立を防ぐためのハードルはドイツ連邦議会のそれより低く、得票率が3%以上あれば議員を送り込むことができるため、今回のドイツ連邦議会ですた得票率を維持ないしは拡大できれば、AfDの進出は非現実的とは言えない状況にある。

AfDの躍進は往時の「共和党(Die Republikaner, REP)」を思い出させる。1983年にCSUの離党者により設立され、「民主的右派」を自称した。1985年にフランツ・シェーンフーパーが党首となると、フランスの「ナチオナル・フロント」をモデルに右傾化し、1992年から2007年までの間、ドイツ憲法擁護庁(Bundesamt fuer Verfassungsschutz)より極右活動をしている疑いがあるとの理由で観察対象リストに載せられていた。同党は1989年6月に7%以上の得票率を得て、欧州議会に進出したほか、1989年6月のベルリン市議会では7.5%の得票を得て議席を獲得した。しかし、こうした快進撃は続かず、1990年12月のベルリン議会選挙では3.1%、1994年の欧州議会選挙では3.9%の得票率にとどまった。ロルフ・シュリーラーが1994年に党首となると右傾化からの離脱を図るようになり、後発の極右政党「NPD」

32 AfD verhängt Aufnahmestopp für Exmitglieder kleiner Parteien. *Die Zeit*. 1. Oktober 2013, <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-10/afd-mitglieder-aufnahmestopp>>10月5日アクセス。AfD: Aufnahmestopp für Mitglieder von rechter Partei, *Stern*. 01. Oktober 2013, <<http://www.stern.de/news2/aktuell/afd-aufnahmestopp-fuer-mitglieder-von-rechter-partei-2061863.html>>10月5日アクセス。

33 Günther Lachmann. (08. Oktober 2013). Das Problem der AfD mit der Freiheit. *Die Welt*. <<http://www.welt.de/politik/deutschland/article120741246/Das-Problem-der-AfD-mit-der-Freiheit.html>>10月10日アクセス。

34 Oliver Trenkamp. (22. September 2013). Alternative für Deutschland: Euro-Gegner feiern den Beinahetriumph. *Spiegel Online*. <<http://www.spiegel.de/politik/deutschland/afd-hofft-auf-last-minute-triumph-a-923801.html>>9月24日アクセス。

(Nationaldemokratische Partei Deutschlands)の方がより注目されるようになり、現在は自治体レベルで議員がいるだけの状態になっている。AfDの今回の選挙の勢いが続くのか、REPのように尻すぼみになるのか、またAfDが右翼政党となるのか、国民政党となるのか、今後も注視していく必要がある。

5. 結語

今回の連邦議会選挙では、外交・安全保障政策は争点としてほとんど議論されなかった。とりわけ選挙直前には英国・フランス・ロシア・米国がシリアへの軍事介入に関して意見を対立させる中、メルケル首相は早々とシリアへの軍事介入には参加しないことを明確にした。ドイツでシリア問題が選挙の争点に浮上しなかったことを、ニューヨーク・タイムズ紙は「ドイツがいかに軍事力の行使を忌避しているかを示している³⁵」として皮肉とも取れる書き方をしている。ユーロ反対を掲げるAfDが躍進する中でも、CDU/CSUやSPDは、ユーロ維持のためのドイツの役割や南欧諸国における失業率上昇に対する対応策などに関して議論を展開しなかった。こうしたことは、今回の選挙がいかにドイツ国民が内向きになっているかを如実に表しているといっていだろう。

FDPという連立パートナーを失ったCDU/CSUは、得票率第二位のSPDと大連立政権の樹立に向けた協議を10月22日に開始し、1カ月後の11月27日に正式合意に達し「連立合意書」を発表した³⁶。185ページから成る連立合意書によれば、SPDが労働政策に関して主張していた最低賃金制度の導入が盛り込まれ、時給8.5ユーロの最低賃金を2015年から段階的に導入することが盛り込まれる一方で、SPDが格差是正の観点から求めていた中高所得者層への増税は見送られた。同合意書の前文で「ドイツはこの数年間、ヨーロッパのどの国よりも、好調な経済成長を果たした」³⁷と記されているように、全体としてはドイツの順調な経済を堅持するとの観点から、最低賃金制度の導入による規制強化は図られるものの、大筋ではこれまでの経済政策を踏襲する内容となっている。

双方はともに議席数を伸ばしたため、CSU/CDUの311議席とSPDの193議席を合わせると八割近い議席を占めることになる³⁸。選挙期間中、FDPとの連立を前提としていたCDU/CSUは、選挙が近づき、FDPが議会外野党に転落する可能性が排除できない見込みが出てくるにつれて、SPDとの大連立も視野にいれる方向に軌道修正を図り始めていた。一方、一貫して緑の党との連立を前提に選挙運動を展開したSPDは、

35 Alison Smale, op.cit. ドイツの安全保障政策については、中村登志哉(2006年)『ドイツの安全保障政策—平和主義と武力行使』(一藝社)、中村登志哉「ドイツの安全保障規範の変容—1999-2011年の海外派兵政策」、『言語文化論集』(名古屋大学)、第35巻第1号(2013年)、105-124頁を参照。

36 CDU, CSU und SPD. *Deutschlands Zukunft gestalten: Koalitionsvertrag zwischen CDU, CSU und SPD*, 27, November 2013. <<https://www.cdu.de/sites/default/files/media/dokumente/koalitionsvertrag.pdf>> 11月28日アクセス。

37 Ibid.

38 In den Startlöchern, *Das Parlament*, 14. Oktober 2013, S.1.

当初 CDU/CSU との連立には非常に消極的な姿勢を見せたものの、大連立政権への協議参加へと舵を切った。議席数から計算すれば、SPD には緑の党（63 議席）に加えて左派党（64 議席）と組めば、連邦議会では過半数を得ることができるため、理論上はそのような連立の選択肢もあり得た³⁹。そうなれば、SPD は左派勢力として最低賃金引き上げや社会保障改革などを追求することになっていた。しかし、SPD は CDU/CSU と協調しつつ社会保障面での改良を試みるという道を選択した。SPD は 11 月 14 ～ 16 日の党大会において、与党入りを大筋で承認し、大連立政権の政策協定作りの最終調整に入っていた⁴⁰。ガブリエル党首は大連立の決断を執行部の独走とされる責任を回避するため、党大会を開いたのである。2005 年から 2009 年の CDU/CSU との大連立政権後の選挙で、SPD は得票率を 34.2% から 11.2% に激減させてしまったことを踏まえれば、SPD にとっては大連立を組むことは確かに危険な賭けともいえる。大連立への参加により、SPD は将来の同党の役割と課題の見直す機会を失うことになるかもしれないからである。こうした懸念は SPD 幹部もよく認識しており、保守陣営に協力はするものの、埋没しないよう存在感を発揮することを意識している。同党大会では「人間の生活を改善する」ことを打ち出し⁴¹、これを新政権の経済政策に反映させたい姿勢である。事実、採点賃金制度の導入に成功し、経済政策が格差是正など左派寄りの軌道修正が図られている⁴²。

CDU/CSU と SPD との大連立は SPD にとっただけでなく、CDU/CSU にとっても危険が潜んでいる。大連立による政権運営が長くなるにつれ、SPD との政策の相違点がより曖昧になることは避けられないからである。しかしながら、大連立政権下では八割を占める議席数の確保による政策運営の安定という短期的な利点は大きい。CDU/CSU は当初、緑の党との連立交渉のポーズも見せていたが両党間の政策の隔たりが大きかったため、上述のように SPD との連立交渉の可能性に絞り込んでいったという経緯があった。もし緑の党との連立が成立していたならば、メルケル首相は、若い女性、緑の党を支持している、リベラルな価値観を持った都市市民層といった新しい有権者に CDU/CSU を開く可能性につながったかもしれない。そうなれば、エリート、保守リベラル、環境社会派といった差異のある市民層が一体となり、双方が利益を得るという展開にもなり得た。そうなってれば、SPD との連立とは対照的に CDU/CSU にとって長期的に新しい視点を提供することになっていたであろうが、その選択は今後に持ち越されることとなった。

39 Kein Morgenrot, *Die Zeit*, 2. Oktober 2013. <<http://www.zeit.de/2013/41/bundestag-linke-mehrheit>>10月4日アクセス。

40 Gabriel kämpft um das linke Herz, *Die Zeit*, 14. November, 2013, <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-11/spd-parteitag-gabriel-rede>>11月18日アクセス。

41 Sigmar Gabriel. Zum Abschluss des Bundesparteitages in Leipzig, 16. November, 2013, <http://www.spd.de/aktuelles/112072/20131116_bpt_leipzig_gabriel_rede.html>11月18日アクセス。

42 Wörüber Schwarz-Rot noch streitet, *Die Zeit*, 18. November, 2013, <<http://www.zeit.de/politik/deutschland/2013-11/koalitionsverhandlungen-einigkeit-streitpunkte-uebersicht>>11月19日アクセス。